

第3回初級養成講座 講座概要

2.須走には世界遺産「富士浅間神社」がある！この魅力を伝えてみよう！

<実践>

■日時：平成 29 年 12 月 10 日（日）13 時～16 時 15 分

■場所：富士浅間神社 社務所

■講師：勝亦 直己（富士山世界遺産ガイド）

関谷 葉子（御厨おもてなし俱楽部代表 ラジオパーソナリティ）



■講義概要

関 谷：勝亦さんは「おもてなし俱楽部」はもちろん、富士山 GoGoFM で情報を皆さんにお伝えしたいということで、2年間「御厨の魅力と富士山講座」という番組を火曜日の朝 10 分間やってきた。今日学んだような中身のことをラジオでやってきた。現在、内容は変わらないが、「ぶらり一さ富士山」という番組をやっている。実際に色々な所に出向いてそこをレポートするという番組。では、勝亦さんが伝える人、私がたまたま浅間神社に来た人という設定でデモンストレーションをしてみる。

～デモンストレーション

～1対1で実践

関 谷：どんなことに気づいた？親しみやすい感じだったが、相手の話し方や、気づいたことは？

参加者：うまく伝えられたと思う

関 谷：実際に練習してみていかがだった？

参加者：浅間神社の歴史など色々話をしたかったが、途中で話が詰まってしまった

関 谷：人は生ものだから思ったようにはいかない。だから相手を観察してほしい。相手の反応がないと、気づいた瞬間言葉が詰まる。頭が真っ白になる。お友達と無意識に話している時は言葉に詰まることはない。無意識のうちに心を開いているので、言葉のキャッチボールができる。初対面の人と話をするガイドは、何かを伝えなければいけないと思えば思うほど相手に伝わらなくなる。たまたま今日は相手が笑顔でしゃべってくれたので、話しやすかったと思う。相手がブスッとしている時、一番話しくい。相手に笑顔になってもらうには、こちらが笑顔で接する。移って相手が笑顔になる、ということ。実際案内をしてみて、どうだった？

参加者：楽しかった

関 谷：楽しい雰囲気が伝わってきた。楽しいのが一番。皆さんが学ぶことも大事だが、知っていることを人に伝えられるということは、ものすごく楽しいこと。楽しいともっと学びたくなるので、相乗効果になる。今日一番初めの“伝えるために大切なこと”というのは、楽しんでもらえることだった。ぜひ、みなさん中級に進んでいただきたい。そしてまだ伝えていないノウハウをお伝えしたい。今日学んだことを、出会った人に練習として普段の生活の中で伝えてみてほしい。話を聞いてもらえるように、興味を持ってもらうためには、どういう風にすればいいか考える。みなさん手を使いながらお話を出来ていたことは、素晴らしいこと。MAPを出して話をしていた方もいた。単なるガイドとして知識をひけらかすのではなく、相手の共感を得るようガイドする。

勝 亦：自分の思っていることを伝えようという空気が伝わってきた。とても良かった。

目標とう「名ガイド」(迷ガイドにならないために)

■講師：勝亦 直己（富士山世界遺産ガイド）



—前回の「御師」の補足説明をしたい。富士講の関係で御師・ご祈禱師の話があったが、富士講だけではなく御師の元は伊勢神宮。平安時代にもいた。山岳信仰のなかで神主の補助的な役目をしていた。“御師”は伊勢神宮で“おんし”と言っている。一般的には“御師”。富士山の周りは、登山道があった本栖湖から精進口があるが、そこに本栖御師がいた。河口湖にも河口御師がいた。140件位で河口御師が一番多い。伊勢神宮は700件以上御師がいた。須山にも須走にも御師がいたが、本栖の御師は河口に吸収された。河口の御師もなんとなく吉田の御師に吸収された形になっている。今御師というと、吉田御師が一般的に“御師”と言われている。山岳信仰というのは、三大信仰と呼ばれる白山信仰、立山信仰、富士山信仰がある。立山信仰の場合は、御師とは言わず、「中語（ちゅうご）」と言った。これは、神様の思いを信者に伝える、信者の思いを神様に伝える、その真ん中の役目をしているので中語。仲介役みたいなもの。佐伯さんという人が代々やっている。

—御師同士が仲良かったのか？という質問。大高先生に聞いたが、もしかしたらあまり仲が良くなかったのかもしれない。先日、「御山割り」と「片参り」という言葉があった。「御山割り」は、吉田口から登ってお鉢があって反対に下りるのはあまり良くない、「片参り」は、富士山に登って富士山だけで帰るのはよろしくない、大山講にも行きなさい、というもの。「行者は南に登りて北に下り、北に登りて南に下りる。御山を割くと称して忌む」と書いてある。何で御山割りが良くないか。要は、吉田口に登ったら吉田口に下りてきて、お金を使って頂戴、という事。信仰ツーリズムという筑波大学の先生が書いている論文を見ると、御師の所にお金を落としたいというのがある。大山講の人たちも富士山と大山講のパック旅行を作っていた。「御山割り」と「片参り」は、お客さんをそこに残したいという思いがあったというのが結論。

- ーガイドをする際に付けたい力。①知識はたくさん持っていてほしい②語りの力。難しいことを難しく話さないで、子供たちに話すように碎いて優しく話す。③小道具を使う。視覚からの伝達を心がける。私はよくうちわを使う④対応力⑤管理力、時間内に終わらせることも大事な事。
- ーお客様を引き付ける話題は地域の特性の話をする。日本人は「三大〇〇」が好きなので、これを盛り込む。日本がっかり三景。①札幌の時計台②天橋立③守礼門。ご当地ナンバーワンも面白い。言いえも1つは入れたい。お客様の下調べをするといい。お客様の地域の情報も入れてあげると良い。
- ー集中力が途切れ、お客様がよそ見を始めない工夫。お客様を見ていて、子供が遊び始めると大人も同様集中力が落ちてきている目安。話をしながら見る。1つの話は3分～5分位。重要な事柄、覚えてほしい事柄は二度繰り返す。解説は断定せず、「〇〇と言われている」、「〇〇という説がある」など濁すような言い方も必要。
- ー「情報」は「五感」を通じ「電気信号」になり「脳」に届く。情報の70%～80%は視覚から脳の感覚野に入る。五感の中で最も発達しているのは視覚である。視覚は外的刺激によって発達する。目は視神経があるので、脳に焼き付く。「目は心の窓」ということで、目が物理的に澄んでいるということではなく、真心から伝えようとするとその人の表情に表れるので、目を鏡で良く見てもらいたい。

質疑応答

- 米 山：実際に御殿場駅でボランティアガイドとして中学生など学生さんがやっているが、中学生でも相手に伝わるもの？
- 関 谷：説明を長くということではないが、繰り返すことでできてくる。サポートし、情報を入れていくと子供は吸収するのがとても早い。子供たちに任せると実践をもって自分たちでやっていくようになる。
- 参加者：町を案内しているが、説明が上手にできないのではないかという不安がある。マニュアルを見ながらガイドしてもいいのか？
- 関 谷：私も常にマニュアルを置いている。見栄を張らなくても良い。先生じゃないので、不安な内容は見ても良い。完璧に先生のようなガイドをしようとすると、しんどくて辞めたくなる。私たちも一緒に学んだことをシェアしようという事でいいと思う。もう一つスキルとして、伝えたことを口語文で自分の原稿を書いてみてほしい。見直しや声を出して読むといい回しのおかしな所が出て来る。書きながら読んでみると聞いた人の気持ちになるので、分かりやすい。
- 勝 亦：敢えて、小物を用いて読んでみるのもいいかもしれない。目に触れるという意味で。
- 関 谷：観光客と同じ目線になって話すのが大事。上からいかない。教えるというのをやめた方が良い。知っていることをみんなでシェアする、という感覚で。
- 勝 亦：学校形式でやると、講義で話すようになる。聞く方、お客様になって話す。